ロシアの朝鮮半島政策
―歴史的変化と未来のゆくえ―

李　　述　森
（訳：孟 達 来）

1．ロシア独立以降の朝鮮半島政策の変化
2．ロシアの北朝鮮核問題に対する基本的な立場
3．ロシアの朝鮮半島政策の未来の方向性

ロシアの朝鮮半島政策は、ロシアの対外政策体系において極めて重要な位置を占める。それは、ロシア極東地域の戦略的安全保障と経済開発に関わり、さらに、ロシアの国際社会における役割と大国の地位の実現に関わってもいる。冷戦終結後、ロシアの朝鮮半島政策は、「軽朝重韓（北朝鮮軽視、韓国重視）」から「南北等距離（南北との等距離外交）」に変わる変化を経験している。最も敏感な問題である北朝鮮の核問題では、除外された状況から積極的に介入する段階を経て、ますます重要な役割を果たし始めるようになっている。ロシアの朝鮮半島政策は比較的一定の要因の影響を受けるのであり、時間の推移に従って、それはますます安定し成熟したものとなってきた。今後の比較的長いスパンでのロシアと北朝鮮・ロシアと韓国との関係、およびロシアの北朝鮮の核問題に対する立場はみな予測できるのである。

1．ロシア独立以降の朝鮮半島政策の変化

ロシア独立以降の朝鮮半島政策の変化は、その対外政策の総体的変化と一致するのであり、それは「軽朝重韓（北朝鮮軽視、韓国重視）」、「南北等距離（南北との等距離外交）」、「穏韓就朝（韓国とは安定、北朝鮮には譲歩）」といった三つの発展段階として概括できる。

（1）独立初期における「軽朝重韓（北朝鮮軽視、韓国重視）」の朝鮮半島政策

冷戦時代には、北朝鮮は旧ソ連の政治的軍事的盟友であって、全ての重要な分野において、両国は密接な連絡と協力を保っていた。1961 年に締結した「ソ朝友好協力相互援助条約」は両国関係の礎石である。朝鮮半島の北部は、ソ連がアメリカに対抗し、世界覇権

を争奪する重要な戦略基地となっていた。ソ連は北朝鮮に経済、軍事、科学技術、人材などを含めた方面で大規模な援助を提供し、北朝鮮の後方支援の役割を果たしていた。逆に、韓国に対しては、ソ連は完全に北朝鮮の立場に立って、不承認政策を採り、国際関係でも韓国を排斥して、いかなる接触も往来も行わなかった。

ソ連解体後、新たに独立したロシアが対外戦略上、西欧「一辺倒」政策を実施したのに応じて、朝鮮半島政策においても、急激に北朝鮮と疎遠になり、韓国に親しむように変わったのである。

ロシアは当時の対外政策において二つの基本目標を追求していた。その一つは、イデオロギー面で西側に依存し、自分が西側共同体の一員であることを全力挙げて表明することである。もう一つは、経済困窮から脱し、急速に国力を回復させることである。

東北アジアでは、韓国と日本は西側共同体のメンバーで、経済も発達した国家だったので、韓国との関係を発展させるのは、ロシアの朝鮮半島政策において何よりも重要なことになったのである。1992 年、エリツィンは韓国を訪問し、韓国と「露韓関係基本条約」を締結する。1994 年には、双方が「建設的相互補完パートナー関係」の樹立を宣言した。そして、協力の誠意を表すため、ロシアは韓国のあらゆる政治的要求をほとんど満足させた。その中には、北朝鮮の核問題に対する韓国の立場を支持し、北朝鮮に核兵器不拡散条約の義務を履行し、国際原子力機構の調査を受けるよう促すことなども含まれている。双方の経済貿易の協力関係も急速に発展し、韓国の多くの有名な多国籍企業がロシア市場に進出し始めた。両国の軍事交流も徐々に展開され、軍事協力は比較的高いレベルに達した。

これと同時に、ロシアの北朝鮮に対する態度はますます冷淡になった。当時の情勢下でロシアは、依然として社会主義制度を維持する北朝鮮と往来するのは、自国の理念に悖る不体裁なことと見て、できる限り一切の関係を絶つようにし、そのため、わざと両国の関係を悪化させる措置を採っていた。例えば、政治面では、ロシアは北朝鮮の政治制度と人権状況を非難していた。1992 年から 1993 年の間、両国のハイレベルな外交接触はほぼ完全な停頓状態に陥った。経済面では、ロシアは旧ソ連時代に実施していた北朝鮮に対する経済支援と貿易優遇政策を停止し、両国の貿易を完全に現金決済で行うという決定は、外貨不足の北朝鮮にとって大きな打撃となった。その後、双方の貿易額は急激に下がってしまった。最も注目されるのは、ロシアが北朝鮮に対する軍事的援助をやめ、北朝鮮からの軍事協力強化の要求を繰り返し拒否していたことである。1993 年に、ロシアは「ソ朝友好協力相互援助条約」の中で承諾していた、北朝鮮の安全保障に対する無条件保障の義務を破棄し、ロシアと北朝鮮の軍事同盟はもはや存在しなくなった。

（2）1990 年代中後期における「南北等距離」の朝鮮半島政策

上述の朝鮮半島政策の実施から間もなく、ロシアには多くの消極的結果がもたらされた。すなわち、ロシアの朝鮮半島問題に対する影響力が急激に低下し、東北アジアの安全保障

問題の中でますます疎外され、また、ロシアの韓国に対する魅力もますます下がったのである。これがロシアの国内世論の強い不満を引き起こした。1990 年代の中後期から、ロシアは朝鮮半島政策を修正し始め、「軽朝重韓」から徐々に「韓朝を共に重視する」南北等距離外交へと転換した。

露朝関係では、1995 年から双方の政府高官の相互訪問が徐々に増えるようになった。同年９月、ロシア政府が自発的に「露朝友好協力条約」を締結し、それによって期限が来る「ソ朝友好協力相互援助条約」に取って代えることを提起し、露朝関係を改善する強烈な願望を表した。そして 1996 年４月、両国は経済協議と定期的な政治対話を回復させることを決定した。自国の経済がまだ困窮から脱していない状況下で、ロシアは機械工業、石油、石炭、電力など八つの分野で、北朝鮮に大規模な援助を提供する意向を表明した。1997 年から両国は、新しい二国間関係条約を協議し始め、さらにロシアは北朝鮮と軍事技術の面で協力する意向を表明した。1999 年には、双方が「露朝友好善隣協力条約」に仮調印した。

北朝鮮との関係を改善するのと同時に、ロシアは韓国との関係発展も疎かにしなかった。1994 年以来、両国は国際関係における協力を引き続き強化し、経済貿易関係も持続的に成長する勢いを保っていた。双方の軍事方面での交流と協力も急速に発展し、1995 年５月と 1996 年 11 月に、両国は「軍事機密保護協定」と「軍事協力覚書」それぞれに調印し、両国間の軍事的信頼関係を強化した。

（３）21 世紀に入ってからの「韓国とは安定、北朝鮮には譲歩」の朝鮮半島政策

2000 年３月、プーチンがロシアの大統領に就任した。南北との等距離外交の大枠を変えないまま、新しい国内外の情勢にしたがってプーチン大統領は朝鮮半島政策の調整を行った。全体的特徴としては、「韓国とは安定、北朝鮮には譲歩」、すなわち韓国との密接な協力関係を安定化させる一方、北朝鮮との関係も一層強化させ、両国間の各分野における協力関係をレベルアップさせたのである。

露韓関係の継続的安定と発展の面では、プーチンは政権を取ってすぐに、韓国との関係発展を非常に重視した。2001 年２月、プーチンは韓国を訪問し、韓国の与野党の政治家と幅広く接触し、両国が政治経済の面で幅広く協力することについて合意に達した。両国が発表した「韓露共同声明」では、建設的相互補完パートナー関係をさらに発展させ、定期的に大統領、総理、国会指導者等とのハイレベル会談を行うことを宣言した。2004 年９月には、韓国の盧武鉉大統領がロシアを訪問し、両国の建設的相互補完パートナー関係を、未来志向の「全面的協力パートナー関係」にまで引き上げることを宣言し、あわせてロシアの石油の共同開発や、極東石油パイプラインの共同建設を決定し、両国の経済協力関係を引き続き深めた。2008 年９月には、韓国の李明博大統領がロシアを訪問し、双方が両国関係をさらに新たな段階に引き上げること――戦略的協力パートナー関係のレベル

まで向上させることを決めた。

北朝鮮は、プーチンのロシア大統領就任後の朝鮮半島政策の最も重要な点となった。彼が就任してまもなく、対朝関係の改善に力を入れ、両国の間で「露朝善隣友好協力条約」が調印された。新条約はソ朝条約の軍事同盟的性質を変えて、両国関係の新しい原則と基礎を定めたのである。条約の締結は、露朝間における10年に亘る冷淡な関係が終わり、両国の関係が新しい時代に入ったことを象徴していた。2000年7月、プーチンがロシア大統領としては15年ぶりの北朝鮮訪問を果たした。そして訪問期間中、ロシアが露朝の経済関係を拡大する意向を表明し、シベリア鉄道と北朝鮮・韓国とを繋ぐ新しい鉄道計画を提案し、またシベリアと朝鮮半島を繋ぐ天然ガスパイプラインを建設する計画を表明した。注目すべきは、両国の間で、軍事協力の問題も全面的に議論され、その中には、北朝鮮を援助して旧ソ連製やロシア製の装備を修繕・改造する問題もあった。その後、北朝鮮の最高指導者金正日もロシアをたびたび訪問し、両国の関係を前例のない高いレベルにまで引き上げた。

メドヴェージェフがロシア大統領に就任してからも、基本的にプーチン時代のロシアの対朝鮮半島政策を継承し、北朝鮮・韓国両国との関係の発展に力を入れ、さらに自発的、実務的で柔軟な外交の実施に努めたのである。

2．ロシアの北朝鮮核問題に対する基本的な立場

北朝鮮の核問題は国際政治、地域安全保障と朝鮮半島情勢における重要な問題であり、またロシアの国家安全と経済利益にも密接に関わる問題である。ロシアは早い時期から北朝鮮の核問題に対して一つの明確な立場を形成してきた。つまり、朝鮮半島の非核化をしっかりと主張し、北朝鮮の核兵器保有の追求に反対する一方、対話・協議などの政治手段を通じた朝鮮半島の核問題解決を追求し、制裁と武力解決の方法には反対してきたのである。

（1）北朝鮮核問題におけるロシアの利益

1）安全保障上の利益

ロシア東部の領土は北朝鮮に隣接し、そこには豊富な資源と海への重要な出口がある。北朝鮮の核問題が適切に解決されるか否かは、真っ先にロシアの国家安全保障に関わるのである。もし北朝鮮が核保有国家になった場合、ロシア東部の安全保障に対して圧力になるのは必至である。また、日本と韓国も、戦略バランスなどの要因を考慮して核兵器を研究開発する可能性があり、それによってアジアに軍備競争がもたらされるのである。もしひとたび核戦争が勃発すれば、ロシアの国家安全保障に甚大な損害を与えることになる。

2）大国の地位

数百年に亘り、ロシアはずっと強大国の地位を保ってきた。ソ連解体後はその国際的地

位が急激に下がり、ロシアは再び大国再興の夢を抱くようになった。ヨーロッパと中央アジア地域がアメリカの圧力を受ける情勢の下、アジアはロシアが大国としての役割を発揮する重要な地域となった。北朝鮮の核問題は、国家の実力と責任を見せる重要な場なのであり、ロシアが身を局外に置けるはずもなく、積極的に関与するのは必然のことである。

３）経済上の利益

1990 年代以来、国際石油価格が不断に上昇するにつれて、石油・ガス資源はロシアの経済復興の重要な支えとなり、エネルギー外交はロシアの外交交渉上の重要な切り札となった。ロシアの石油･ガス資源は主にシベリアとカスピ海地域に集中している。しかし、カスピ海地域は関係が複雑な地域なので、シベリアの石油・ガス資源の開発が、ロシアが力を入れる重点となった。石油・ガスの輸送面では、東部パイプラインの開拓がロシアに巨大な経済利益をもたらす。朝鮮半島はロシアの後背地とアジア太平洋の広い地域とに連なっている。したがって、北朝鮮の核問題の平和的解決を保証することは、ロシアにとって極めて重要なことなのである。

４）特殊責任

ほかの国に比べて、ロシアは北朝鮮の核問題の解決に対して特殊な責任を有している。というのは、北朝鮮の核計画は、旧ソ連の援助と支持に密接に関わっているからである。1950-60 年代には、ソ連は北朝鮮のために数多くの核技術者を養成し、北朝鮮の原子力研究所建設に協力し、原子炉を一基輸出したのである。ソ連の継承国として、ロシアは北朝鮮の核問題を最も理解しているべきであり、また、北朝鮮の核問題解決にも道義上の責任を負うべきである。

（２）ロシアの北朝鮮核問題に対する立場と方法

上述の直接的な利益に鑑み、ロシアは北朝鮮の核問題の解決への関与を一貫して積極的に追求してきた。つとに 1994 年、最初の北朝鮮核危機勃発の際に、ロシアは北朝鮮の核問題を周辺国による国際会談によって解決するように提案していた。2002 年に北朝鮮で新たな核危機が発生した時、ロシアの大統領特使が直ちに北朝鮮を訪問し、北朝鮮の核危機を解決する一連の提案を行った。2003 年初頭には、ロシアは北朝鮮核危機に関する多国間協議に参加する強い願望を表明し、同年８月に六カ国協議の正式なメンバーとなったのである。それ以来、ロシアは一貫して積極的かつ建設的役割を果たしてきている。

ロシアが北朝鮮核危機の解決に参加する過程では、次のような原則的な立場を形成していた。

１）朝鮮半島の非核化原則の堅持

ロシアは北朝鮮の核危機が発生した時から、朝鮮半島の非核化原則を堅持していた。朝米の直接対話を通じて、双方が結んだ枠組合意を維持するように希望し、また、北朝鮮が国際原子力機構との協力を拒否したこと、同組織からの脱退声明を批判し、北朝鮮に対し

て、核計画を公開し、国際核査察を受けるように求めた。2002年に第二次北朝鮮核危機が発生した時は、ロシアはこの立場を再び言明し、国際社会とともに北朝鮮に圧力をかけた。

２）政治と外交手段を通じた北朝鮮核問題解決という主張

ロシアは制裁や武力措置で北朝鮮核問題を解決することに賛成しない。北朝鮮の孤立と制裁の進行、特に武力による威嚇は、北朝鮮の核兵器開発の決心を強めるだけで、地域情勢の安全保障と安定の役に立たないと考えている。

３）北朝鮮への安全保障提供の提案

ロシアは、北朝鮮が自らの核計画を堅持する理由は、安全保障が欠けていることにあるとみている。そこで北朝鮮への安全保障の提供を通じて、その核計画を軟化させ、最終的には放棄させるべきであると主張している。

３．ロシアの朝鮮半島政策の未来の方向性

ロシアの朝鮮半島政策の未来の方向性は、国内と国際という、大きな２つの要因の影響を受ける。国内要因としては、経済発展の必要性、国家の総合力の向上、大国の地位への欲望がある。国際要因としては、アメリカとの戦略的駆け引きが最も重要な位置を占めている。同時に、中国のますますの強大化と、朝鮮半島統一のプロセス、日本の政治軍事大国化の進展などもロシアの対朝鮮半島政策に影響を与えるのである。

（１）内在的要因によるロシアの対朝鮮半島政策の未来への影響

１）経済発展の必要性

ソ連解体後、新たに独立したロシアの経済は急落し、多くの面で第三世界国家に没落した。国力の脆弱化が国内政策と対外政策の一連の問題をもたらした。経済の復興、国力の強大化はロシアの与野党が最も関心を払う問題となった。ここ数年来、エネルギー輸出の増加にしたがい、ロシア経済は好転し、軍事力の成長を遂げているが、構造的な問題はまだ解決されていない。経済を発展させることはロシアの最も重要な課題であり、対朝鮮半島政策ももちろんこの目標に沿ったものとなるべきである。こうした状況の下、ロシアはぜひとも朝韓両国との関係を同時に発展し深化させなければならない。経済利益を追求する点では、ロシアはあまり多くのことを顧慮することなく、最大限、利益最大化を追求するであろう。

２）安全保障要因

朝鮮半島、特に北朝鮮はロシアに隣接しているので、その緊張と不安は直接ロシアの極東地域の安全保障と安定に影響を与える。そこで、ロシアの安全保障面での半島政策は、上述したように、①朝鮮半島の非核化を確保する。②北朝鮮の核問題は政治外交を通じて

平和的に解決することであり、圧力をかけたり武力を用いた解決には賛成せず、また、いかなる形の脅威や制裁にも反対する。③北朝鮮への安全保障の提供により、その核計画を放棄させる。当然のことながら、自らの安全保障のために、ロシアは朝鮮半島統一の早期実現は望まない。特に東西両ドイツ統一の時のように、朝鮮半島が統一後、引き続きアメリカの軍事同盟の中に留まることは望まないところである。しかし、ロシアも朝鮮半島統一の問題に対して明らかな障害を設けることはしないものの、ロシアにとって最も有利な統一方式とその後の配分を勝ち取ろうと努めるだろう。

３）国際政治要因

ロシアは伝統的大国の１つであり、グローバルな政治と安全保障の利益の要求を有している。大国の地位というのは、グローバル政策、特に朝鮮半島政策にとって重要なものである。したがって、ロシアは自国が関連する取り決めから除外されることを容認しえないだろう。そう遠くないうちに、ロシアは自国の六カ国協議における地位と役割を強め、半島問題に積極的に参与し、関係する大国との接触と協議を強化し、立場を協調させるはずである。ロシアは東北アジアの安全保障体制の構築に力を入れるはずであり、かつその中で最も有利な位置を取得するために全力で取り組むはずである。

（２）外在的要因によるロシアの対朝鮮半島政策の未来への影響

１）アメリカ要因

現在、ロシアの朝鮮半島政策に影響を与える最大の外部要因はアメリカとアメリカをトップとする米日韓同盟である。冷戦後、アメリカをトップとする西側諸国が、ロシアの西部、南部でロシアの戦略的生存空間に圧力をかけており、常にロシアの強い反発を引き起こしている。そこで、重要な対策の一つとしては、アメリカに敵対する国との連携・協力を強化することである。東北アジアにおける多くの重要な問題において、アメリカがもしロシアを除外するか、その影響力を弱めて、その利益と尊厳を損なわせるのであれば、ロシアは必ずや北朝鮮との関係を強化し、北朝鮮の核問題解決に消極的態度を採るだろう。自国の実力が増すにつれて、ロシアは自らの地位と尊重される度合いに対してますます敏感になり、アメリカ及びその同盟国も、ロシアの感情と反応をますます考慮に入れるようになるだろう。

２）中国要因

現在、ロシアと中国の朝鮮半島政策における立場は類似しており、共同利益はロシア自らが考える以上に大きいのである。しかし、時間の推移に伴い、特に中国の国力と軍事力が一層増強されるにつれて、ロシアは朝鮮半島において、中国とも影響力を争いあうと考えられる。ロシアは統一後の朝鮮半島がアメリカに傾くことを望まないし、同様に、中国に傾くことも希望しないので、両者の間でバランスを見つけることになる。

３）日本要因

ロシアと日本との間には北方領土をめぐる紛争があり、また日本がアメリカの同盟国であるため、ロシアは日本が朝鮮半島問題で多くの利益を求めることを望んでいない。もし、北朝鮮の核問題が日本の新たな軍事力整備をもたらしうると見なした時は、ロシアは北朝鮮に圧力をかけて、日本にこのような口実を与えないようにするだろう。一方、ロシアは朝鮮半島問題によって日本に圧力をかけ、北方四島をめぐる紛争を解決するための取引材料を増やすのである。

（３）さらなる北朝鮮の重視

今後、比較的長期的には、ロシアは朝鮮半島問題において基本的には変わらずに「南北均衡」の原則を保持すると考えられる。しかし、短期的には、ロシアは北朝鮮への影響力の拡大を図るのではないかと考えられる。というのは、まず、北朝鮮・韓国双方の関係からみれば、朝鮮半島問題を解決する主導権は基本的に北朝鮮側にあるからである。そこで、北朝鮮との関係をうまく調整できるなら、朝鮮半島問題に介入するための取引材料を増やすことができるというわけである。次に、北朝鮮は国際社会の注目の焦点となっており、北朝鮮との密接な関係を保つことができれば、国際関係において、特に対米関係における発言権やプレゼンスを増すことができるのである。さらに、北朝鮮との関係を強めるのは、朝鮮半島との経済協力を発展させる鍵である。そこで、ロシアができる限り北朝鮮の要求を、特に経済と軍事面での要求を満足させ、あわせてロシアがある程度北朝鮮の国際関係と地域関係における仲介人ないし代弁者を務めることになるのではないかと考えられる。

キーワード　ロシア　朝鮮半島政策　北朝鮮核問題　変化　ゆくえ

（LI Shusen）

（Tr. by Möngkedalai）